



～ エデンの園 創立40周年記念のごあいさつ ～

これからも「共に」

理事長 川 越 瑞 枝

思いもしなかった出会いが人生を変える事もあ
る。入学した高校のすぐ近くには宮崎県立盲学校
(現在はNHK宮崎放送局)があった。視覚障がい
のある友人が通学している事もあって、帰宅途中
舗道と運動場を隔てたフェンスに足をかけ、自転
車に乗ったまま、体育の授業を眺めていた。特に
興味深かったのがかけっこの練習で、タンバリン
や太鼓、笛など音源をゴールとして決め、それに
向かって突っ走るといふもので、(自分は目が見
えなかったらあんなに突っ走れるかなあ)、ま
るで見えているかのように走る小学生の姿に感動す
るばかりであった。

その盲学校で教鞭をとっていたクリスチャンの
宮本美雄氏と出会った。授業を終えた土曜日の帰
りには宮本宅に寄り、キリストの愛を伝える土曜
学校を手伝い、時を忘れてこどもたちと走り回っ
た。

宮本氏は中途失明の苦悩の中でイエスキリスト
を救い主として信じ、教育者として生きていく決
心をし、苦学の末宮崎県立盲学校に赴任した。卒
業生を送り出すようになると、針や按摩などの技
術を身につけ、国家資格を取得しても就職には繋
がらない学生や知的な障がいのため国家資格試験
を受けることができない学生に幾人も出会った。
彼らは卒業すると親の元に舞戻ったり、家族に見
てもらえない者は寮で待機しており、宮本氏はわ
が子の先の見えない保護者からの相談を沢山受け
ていた。

そんな家族や本人、卒業生(盲信徒会)ボラン
ティアが一緒になって「宮崎県盲重複障害者を守る
会」を立ち上げ、宮本氏を会長に選出した。「海
の家」「山の家」の「お悩み事相談」では
「障がい児の教育相談」や年金の手続き、医療機
関でのトラブルに関する事などが人気で、県下
から障がい児を抱えた家族で体育館が一杯になる
ほどだった。一方、家庭訪問による在宅障がい者
の実態調査や市町村からの情報で、在宅の重い障
がい者には福祉的なケアの薄い実態が明らかにな
った。特に視覚だけでなくダブル、トリプルの
障がいを重ね持った方々の中には、家の中に幽閉
され、周りには不在だと言って隠されている者も
いた。

残された機能を十分活かし「仕事をして生きる
喜び」を味わい、個性豊かで素敵な存在である
方々との共に生きる在り方を探れば探るほど現状
に戸惑い、会だけでは解決できない課題が山積み
になっていった。当時は家族が安心して託せる施
設などの資源は乏しく、行政に働きかけをする機
会も多くなった。家族もこの運動に積極的に参加
されるようになり、その切実な思いが行政にも届
いて行くようになった。こうして「重複障がい者
を守る会」の活動は次第に施設建設に絞られて
いった。事務局を担当していた私には、この流れ
の中で障がい者も家族もその周りにいる私たちも
「一緒に」「共に」という思いが一つになって、
会の名を横並びの目線を大切にしたいと「重複障
害者と共に生きる会」と名称の変更を後日行っ
た。1977年には法人「エデンの園」設立の認可を
いただき、翌1978年「精神薄弱者更生施設」とし
て「エデンの園」が誕生した。

エデンの園は入所施設としてスタートでしたが、
現在は、グループホームや通所系の事業、相談支
援事業、放課後等デイサービス事業などを三名
(さんみょう)地区だけでなく、森永地区や綾町
でも行っている。これも県、国富町、三名地区の
住民の皆様の温かい協力、お支えがあったのこ
とである。社会福祉法人による知的障がい者の宮崎
県第1号の施設として、40歳を迎える事ができた
喜びと沢山の方々への感謝の思いは格別なもの
がある。私は個性的でひたむきに生きていこうと
する彼らとその家族との出会いで育てられ、成長
させてもらった。

これからも「あなたの隣人をあなた自身のように
愛しなさい(聖書)」という法人の理念に沿って
皆様と「共に」障がい者の幸せを願って確かな歩
みを続けて行きたいと願っている。



エデンの園建設着工当時(昭和52年)

●1971(昭和46)年～1977(昭和52)年のできごと

- 1971年(S46) ○ 宮崎県盲人キリスト信仰会の会員が中心となり、宮崎県重複障害者を守る会を結成し、総会において重度の心身障害者の訓練施設建設運動を起こす。
- 1977年(S52) ○ 厚生省より「社会福祉法人エデンの園」(初代理事長中島茂)が法人認可される。

辞令交付式



昭和53年4月1日、辞令交付式の後記念撮影。初代理事長中島茂を初代園長宮本美雄夫妻とフレッシュな職員が囲む。

落成記念式



宮崎県の知的障害者の民間施設第1号として国富町に開設した。キリストの愛を理念とした施設づくりを目標とした。

夏祭り



第1回目は借用した工事現場の足場でステージを組んだ。ステージから落ちないようにロープが張られている。

運動会



好評だった仮装行列。組体操を行い、後に音楽クラブの演奏で入場した。職員は前日から徹夜で準備し、そのまま開会式を迎えた。

クリスマス礼拝・祝会



オリジナルの装飾を施し、礼拝後、趣向を凝らしたプログラムで参加者とともに祝う。最後は豪華なディナーを頂ながら1年を振り返り、感謝する。

わたぼうしコンサート



毎年、詩を応募した。4人の利用者が入選し、曲がつけられ披露される。デパートで買い物し、レストランで食事した後コンサートを楽しむ。

成人式



手作りの装飾を施し、国富町長、福祉課長も列席して全利用者、家族、職員で礼拝し祝った。現在は国富町の成人式に参加している。

無限の可能性



適正、好み等に応じて作業活動を行う。農園芸、養鶏作業、陶芸、点字印刷、牛の肥育、手工芸などがあつた。無限の可能性を合言葉に治療教育をすすめた。

体力づくり



毎朝30分ほどそれぞれのペースで農道をランニングする。足腰を鍛え、季節の風に親しんだ。雨の日は体育館で柔軟体操などを行った。

●1978(昭和53)年～1988(昭和63)年のできごと

- 1978年(S53) ○ 宮崎県、日本自転車振興会、国富町、宮崎県重複障害者を守る会の助成により建物完成し、精神薄弱者更生施設エデンの園が開園(定員50名)する。キリストの愛に基づく施設経営を旗印に初代園長に宮本美雄が就任する。
- 1979年(S54) ○ 清水基金、エデンの園を支える献金で体育館を建設する。
- 1982年(S57) ○ 三名区墓地に、エデンの園記念塔を建立する。
- 1982年(S57) ○ 第5回全国盲重複障害者施設研究大会(宮崎大会)を主管する。
- 1984年(S59) ○ 全国の優良施設として天皇陛下より金一封御下賜される。
- チャリティーコンサート・福祉講演会等を宮崎市で毎年開催する。～1995年度まで
- 1985年(S60) ○ 食堂、浴室、指導員室等を増設する。
- 二代目理事長に檀上勉が就任する。
- 1988年(S63) ○ エデンの園診療所を開設する。